

生命表と解約率

ケーブルテレビ アーキテクト 上山裕史
今号は、生命表と解約率について説明します。

ケーブルテレビ会社で働く読者から、「この頃、静かにテレビ解約数が増加している」との情報が寄せられました。この背景を説明するのが今回のテーマです。

厚生労働省が国勢調査年を対象として、5年ごとに作成する完全生命表と、毎年作成する簡易生命表があります。最新の簡易生命表は以下のURLまたはQRコード(*1)から、令和4年簡易生命表をエクセルデータとして入手できます(図1)。この表では年齢ごとの生存数と死亡数が記されています。最初の生存数を10万人として、日本の年齢別の推移がわかります。

図2はダウンロードした令和4年簡易

生命表から、筆者がグラフ化したものです。X軸が年齢、Y軸が「男」の生存数です。年齢が65歳までに死亡するのは10%で、その先30年後に生存するのは10%となります。死亡数を見やすくするためスケールを変更し、Y軸右側にします(図3)。死亡数のピークは88歳になります。簡易生命表の「女」のデータを加えたグラフが図4です。女性は3~5歳、男性よりグラフの後ろにずれており、この分だけ長命であることがわかります。

生命表は電子部品の信頼性予測と同じ考え方を感じます。テレビというコンテンツに対して不満

はなく加入者として長年収入に貢献しても、生物としての限界から解約しなければいけない状況が見えてきます。繰り返しますが、65歳までの死亡は10%以下であるのに対して、その後30年で残り80%が死亡します。加入者の高齢化が進むと、静かな解約が進むと理解できます。

簡易生命表から平均寿命と似た概念の平均余命である「寿命中位数」(*2)がわかるので、年金の受取年齢や生命保険、コロナなど疾病の寿命への影響など多方面に利用されています。

本稿が、ケーブルテレビの魅力あるコンテンツ開発の一助になれば幸いです。



図1:厚生労働省のホームページ

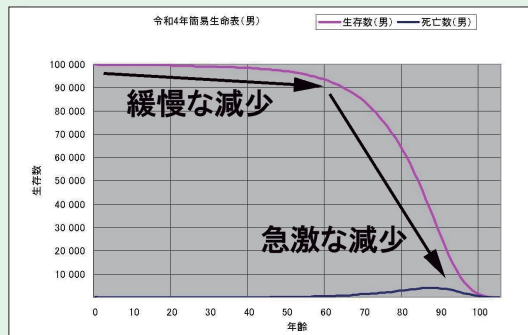


図2:令和4年簡易生命表(男)

(*1) <https://00m.in/hdwNZ>



(*2) 生命表上で、出生者のうちちょうど半数が生存し、半数が死亡すると期待される年数を寿命中位数という(厚生労働省HPより)

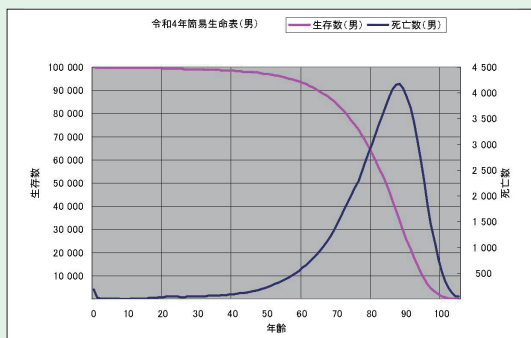


図3:令和4年簡易生命表(男)

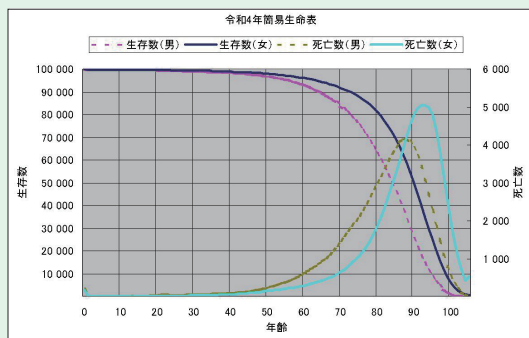


図4:令和4年簡易生命表(男)(女)